平成28年度第1回石狩海浜植物保護センター運営委員会議事録

- ◇日時：平成28年8月4日（木） 10時00分～12時00分
◇会場：花川北コミュニティセンター 会議室C
◇出席：松島肇（会長）、安田秀子（副会長）、伊井義人、内藤華子、高瀬たみ、北條静香、
後藤芳子
事務局：本間博人（センター長）、川村祐子（主査）、高橋恵美（技師）
◇傍聴者：1名
◇議題
1. 平成27年度活動報告について
 2. ハマナス再生プロジェクトについて
 3. センター運営のアウトソーシングについて
 4. その他

◇議事

【松島】

それではまず、最初に議題1、平成27年度の活動報告について事務局からご説明よろしくをお願いいたします。

【事務局】（資料1の説明）

【松島】

ありがとうございました。非常にたくさんの議題があり、報告が大変であったと思います。何かご意見・ご質問がありましたらお願いします。少し細かいですが、いしかり海辺ファンクラブが共催で実施したカルチャートークには講師の先生のお名前が入っているのに対し、はまなすセミナーには伊藤由起子さんや尾形優子さんの名前がないので講師として入れていただきたいと思います。また、ハマナス再生園の整備の話は中間報告でも出てくると思いますが、地元の方々を呼び込むためには動機づけが重要かと思いますが、なにか考えがあれば教えていただきたいです。

【川村】

ハマナス再生園については中間報告時にさせていただきます

【安田】

第3回石狩海辺の風景写真コンテストの作品がフォトコンサミットに参加と口頭になりましたが、フォトコンサミットの詳細をお聞きしたいのですが。

【川村】

フォトコンサミットは札幌市が主催しており、道内各地で実施している写真コンテストで受賞した作品を集めて展示会や、HPで写真を掲載しています。

【安田】

そのフォトコンサミットで集めた写真は自由に使っていいのでしょうか。

【川村】

そこまでは概要を見ないと分からないですが、石狩海辺の風景写真コンテストに関して

は、今後自由に PR させていただくという趣旨のもとで開催しています。

【安田】

花のかけはしのプロジェクトで、名取市に行った石狩中学校3年生の費用は誰が出したのですか。

【川村】

北の里浜 花のかけはしネットワークで補助金をもらい、去年、今年、来年の3年間は実施することが決まっています。

【安田】

中学生に関しては全額、補助金からの支給でしょうか。

【川村】

生徒4名と引率の先生の分の旅費を全額出してもらっています。

【松島】

地球環境基金という補助金を取っていると聞いています。ちなみに保護センターが主催・共催としている活動である出前講座や、花のかけはしプロジェクト、浜学習の成果は、センターで報告会・展示発表という形は今までとっているのでしょうか。

【川村】

通信はまぼうふうで記事にしています。

【本間】

花のかけはしと一緒に名取市へ行った4人の生徒たちに関しては学校で活動報告をしているが、成果の報告をセンターの展示物としては生かしていない部分は事実です。もう少し展示に生かす工夫はしたいと思います。

【北條】

今年の春まで石狩中学校で PTA をしていました。1～3年生の活動は子どもたちの中ですが交流していると聞いています。今の加藤教頭先生が石狩浜のボランティア活動を積極的にしていきたいと考えている方で、石狩中学校が毎年実施している浜辺のゴミ拾いにプラスして保護センターで海浜植物の内容を加えて活動し、外に発信できる環境づくりをしていきたいという趣旨を話していました。活動する場を子どもたちに与えれば、喜んで活動していくので、外部発信の仕方含め学校側と今後調整できればと思います。

【本間】

地元の石狩小学校も石狩中学校同様に石狩浜の学習に取り組んでくれており、小学校でやったことを中学校でスキルアップして学ぶ流れができています。この流れを生かしながら、センターも協力していきたいと思います。

【高瀬】

ガイドボランティアは人数の減少化を考えて、展示物など誰が見ても分かる内容に考えて新しく作りました。保護センターも報告書を見て分かるようにすごい仕事量なので、外部の人でもできるように何かあると良いと思います。

【松島】

石狩は札幌よりも歴史が深く、地元の文化がたくさんあります。歴史と自然と一緒に生かしていく活動ができればと思います。今回活動のサポートしていただいた、「いしかり海辺ファンクラブ」や、「マウニの丘」の名前を出していただけるとよいかと思います。

【伊井】

昨年の5月の来館者数が多くなっていますが、団体数が多いのでしょうか。

【本間】

団体数が多いことが影響していると思います。来館者数カウントは入り口のカウンターを参考にしておりますが、団体が来館すると出入りが多くなるためカウンター数の調整をしています。そのカウンター数の調整方法を昨年から変更したため影響した可能性もあります。

他の要因としては、夏の天気が悪く、その点に関しても影響しているかもしれません。

【松島】

今年も5月の天気は良かったけれど、7月は特に土日が天気に恵まれませんでした。今年度も同じような形になるかもしれませんね。

【内藤】

双葉小学校のESD環境教育について、事務局からのボリュームが多くて今年度につながっていないという報告がありました。具体的に内容をお伺いしたいのですが。

【川村】

まず、今まで担当していた先生が他の学校へ移動してしまい引き継ぐ先生がいなかったことが1点あります。その先生が残っていれば次の学年に引継ぎをしておっしゃっていました。確認のために4月に学校側に連絡をしたのですが、総合学習はまだ決めかねているようでした。また、前年度に60時間もESDに費やしたことは、先生たちにかかなりの負担であったように思えます。学校側の傾向として1度浜で現地学習をして終わる形がほとんどであったのに対し、この場合は同じテーマで学習を続け、毎回各団体と打合せを調整している点がかかなり大変であったと思います。

【本間】

ESDについて若い先生は大学等で学び、受け入れやすいのですけれど、それ以外の先生方にはかなり受け入れがたいと思います。今までの学校のスタイルは、先生が発信したものを生徒が発表という形だったのに対し、ESDは生徒が課題を見つけ、意見交換をするところまでやるという内容になっています。ESD自体が今までの学校のスタイルとは違うため先生の評価する点が難しく、また核になる先生がいなくなってしまう、昨年度のボリュームが大きかったという部分で今年度につながらなかったということがあったのだと思います。ESD自体捉えすぎなくても、総合学習なのでもっと気楽に学んでもよいのかなとは思っています。

【川村】

加えて、交通手段であるスクールバスの予約を事前にはしていただかないと、浜に来る手段がないという問題もある。

【内藤】

浜には全部で何回来られたのですか。

【川村】

児童全員が来たのは2回です。1回目は全員で、2回目にいしかり海辺ファンクラブの方たちに案内してもらいました。その他には班や個人単位で来ているかもしれません。

【内藤】

浜に来て子どもたちはどういったことが理解できたのか聞きたいです。それなりの学んだ成果などは出ていたのでしょうか。

【川村】

その点に関しては、学びの成果について学校と保護センターとでは違うと思います。学校側は石狩浜の自然について学んだことが成果ではなく、どういった方法で調べたか、どういった方法で相手に伝えれば伝わるかという過程を評価していました。センターとしては貴重性が学べたかという点が成果であるため、成果が出たかどうかは一言では言えないと思います。

【本間】

ESD 自体は知識の成果を見るわけではなく、プロセスが大切なため評価が難しいと思います。

【安田】

最後の発表会を見させていただきました。やはり、その発表からも学校と保護センターの求めていることは違うと感じました。発表してくれた内容が、教えた内容と違う点がありました。砂丘の風資料館やファンクラブが対応して勉強していたと思います。ただ、数時間だけファンクラブに授業をお願いしますといわれたので、全体の背景がまったく把握できませんでした。学校の先生はファンクラブが教えた内容について、どこが違うのか教えることはできません。ファンクラブとしては、知識を学んでほしいという考え方なので、そういった点を考慮するものとして先生用のマニュアルを作って、ファンクラブがいなくても最低限のことが分かるようにした方がいいのではないかと思います。

【内藤】

その間違った知識というのは、致命的な間違いでしょうか。それとも細かいような部分ですか。

【安田】

教えたと思う点はいろいろとありました。

【松島】

授業協力の部分はプログラム作成協力ではなく、あくまで一部だったのですか。

【安田】

一部分を少し依頼されて活動という感じです。そのため全体の背景は分からないままでした。

【伊井】

推進委員としてESDに関っていました。科学的な知識と、それに対する思考力・判断力をどう身に付けるかのバランスが難しいと思います。もちろん最低限の科学的な知識を得るのは必要ですが、詳細なところの最終的な判断は子どもたちに任せるといった形になります。保護センターと学校側の考え方の違いというのは、最終的な方向性の違いというこ

とはあると思います。ただ、その違いをある程度センター側が受け入れていく必要はあると思います。もちろんセンター側の考えを伝えることは可能ですが、それを押し通していくというスタンスは小学校に対してはあまりよくない。客観的事実とそれをどう考えるかという余裕を与えていくことがとても重要になっていくのではないかと思います。あと、60時間という時間をかけたという事実はすごいことだと思います。週に3回と考えても年間105回。105回中の60回ということは、前年度の年明けくらいから計画しているはずなので、次年度の計画について聞くのを年明け早々にするといった、時期を考えた方が良いと思います。

【川村】

先生方の人事が分かるのが3月の下旬で、同じ先生方が同じ学年を持たないことが多いため、4月に電話してもまだ決まっていなと言われてしまい、決まった頃には浜が一番の見所になってしまうことが多いです。各学校にESD担当の先生がいるのが理想です。

【伊井】

今回は特に担当していた先生が移動してしまったというイレギュラーなパターンではありますよね。ですが、基本的には次年度の事業計画は前年度の年明けには確定しているのが一般的。本来であれば人が変わっても対応できるようにするのが基本。ただ、この60時間という時間を使ってくれたというのは評価をするべき点です。私が聚富小中学校で地域の自然を使った総合学習を計画していますが、年間10～15時間でもかなり難しいのが現状です。こういった状態をどう評価していくかある程度パッケージ化する必要性を感じました。

【松島】

ありがとうございました。前段の教育について今後とも計画して、継続していければと思います。時間の関係上、次の議題に移らせていただきます。続いてハマナス再生プロジェクトの中間報告を事務局よりお願いいたします。

【事務局】（資料2の説明）

【松島】

心配なのが、ハマナス再生園活動が月に1度していますが、今後維持管理していく人数として十分な人数を確保しているのかが気になりました。実際に活動してみてどういう状況なのか教えてください。

【内藤】

月一回の作業では到底追いつくものではないです。雑草との戦いの部分が大きく、また今まで植栽してきた苗が小さいまま植えていたため生長が遅かったのも原因のひとつです。今後は大きくしてから植栽するような形をとるなど工夫をしていこうとは思っています。実際、こうすれば再生するという手法がないので手探りで進めているのが現状ですね。特に自然再生されていない再生園奥側の部分が今後の課題ではあります。

【松島】

植栽した苗の維持なのか、それとも雑草が繁茂してしまうことのどちらが問題となっているのでしょうか。

【内藤】

苗を植えて枯れていくわけではないです。生長がとても遅いです。遅い生長をどう早く生

長ささせるかが課題で、水も手前は念入りにできて奥側は難しい。水やりを丁寧にやっている部分は大きく生長したので手をかけてあげることが必要だとわかりました。後はやはり大きい苗を植えてあげることが大事なのかと思います。また、雑草をとる人の確保も大切で、区画ごとにお世話をしてもらう人や企業を募集して競わせるという形をとってもいい。実際に雑草取りをすることで少しの雑草も気になりだして手を掛けたくなるように思えるのでそういった仕掛けをしていく必要があると考えています。

【高瀬】

今、ハマナスを増やしているのは花びらを収穫するのが目的なのか、それとも見るために増やしているのでしょうか？

【内藤】

両方の意味があります。

【高瀬】

はまなすの丘公園はあまり除草作業をしなくても小さいハマナスがびっしりとありますが、やはり外来種があって生長を阻害させるのでしょうか？

【内藤】

基本的に周りの雑草によってハマナスの生長を妨げてしまいます。

【高瀬】

自然でいいなと思っていました。雑草も大きいものだけ取ればいいのかと考えていました。

【内藤】

ハマナス再生園の手前側は大きな株が生長して花びらを取っていますが、奥側も大きくして、手前だけでなく奥からも花びらを採取、鑑賞できることが目標としていますので全体的に再生をさせていと思っています。

【高瀬】

除草・維持管理をしていくことは大変だと思います。雑草はすぐに生長して大きくなりま
すもんね。

【松島】

砂地には栄養がないので、ハマナスのような木本は生長しにくい環境になっています。雑草と呼ばれるススキなどはすぐに大きくなることで、ハマナスに光が十分に届かなくなる。光が届かないと花が咲かないので実もなくなり、ハマナスが衰退していってしまう。

【安田】

先進的にハマナスを育てている場所がありますか？道内では？

【内藤】

あまりないですね。ただ、園芸種と野生種では生長が違うということが分かってきましたので。

【安田】

何が違うのですか。

【内藤】

生長が遅いです。同じ条件で種を植えても園芸種の方が生長は早いです。

【高瀬】

改良しているのですか。

【松島】

改良されています。

【内藤】

ただ、再生園はあくまでも野生種を増やしていこうと決めている。

【安田】

肥料とか入れたらどうでしょうかね。

【松島】

肥料を入れて、土壌改良をすれば生長は早くなることは確かですが自然の状態に近い場所という考えがあります。

【本間】

再生園の取り組みは実験ということもあり、同じように荒れている土地でのハマナス再生をする場合の手本になるようにという考えがあります。肥料を入れてしまうと、他の場所でも入れてという形になってしまうので、なかなかうまく入ってはいませんが最小限の管理の中で再生していくかを実験しているという形です。前回の運営委員会のときに、17区画ごとに企業が維持管理をしてはどうかと提案しましたが、企業側も人手をそこまで回せないという状態です。先ほど内藤委員が言っていた競わせる形もありなのかもしれません。

また、今札幌の環境コンサルが企業のCSR活動を支援していこうとする提案があり、その中でハマナスの再生園に関してCSR活動として参加できる企業さんがいれば参加できるような仕組みづくりをしていきたいと思えます。

【松島】

それでは次に移ります。

次は資料3 センターのアウトソーシングについてお願いいたします。

【事務局側】（資料3の説明）

【松島】

この話に関しては平成29年度からでよいのでしょうか？

【本間】

平成29年度から委託開始ということです。

【松島】

今年度中に委託先と締結となる？

【本間】

まずは委託先予定でありますファンクラブでどうかという内部調整があります。

【伊井】

委託先について公募しなくては行けない決まりが市ではあるのですか？

【本間】

そういった決まりはないです。ただ、市の運営する建物の維持管理をする場合は指定管理者制度に基づいて管理・運営しなければならないが、今回のように運営のみの場合には規定はありません。ただ、委託する相手方がひとつしかない場合は1社だけの随意契約も認められます。

【松島】

ただ随意契約は少し前から問題になっていますよね。今後、そういったことが問題になってしまう可能性があることは心配な点ではありますね。

【内藤】

今後の市の内部調整で、公募という形になった場合受託時期は変更になってしまうのでしょうか。

【本間】

受託期間は29年度からとなっているので、年内には公募し、市で調整をするという流れになると思います。

【内藤】

では、受託がずれ込むことはないということですか。

【本間】

予定通り進むと考えて大丈夫です。

【伊井】

決定機関はこの運営委員になるのですか。

【本間】

おそらく市で決めることになると思います。もともと公務サービスに平成20年まで委託をしていたことがあるのですが、普及員さんが変わった後センターの運営がうまく行かず、市の直営に戻したという背景があります。誰でもできるわけではなく、保護センターの業務について分かっている団体、石狩海辺ファンクラブに任せるのが必要であろうという考えを事務局として進めている。

【後藤】

公募になれば石狩市内の団体が募集となるのでしょうか。

【本間】

石狩市内の団体・任意団体もしくは、企業にまで広げて公募する必要があるかもしれないです。

【伊井】

契約期間で最長何年という決まりは市にはあるのでしょうか？

【本間】

1年を超える契約が地方自治上で難しいということがあります。

【伊井】

最長何回更新できるということがありますか？

【本間】

ありません。指定管理者制度になると4～5年と期間を設けられるのですが、通常契約の場合はないので。ただ、お互いに問題がなければそのまま自動更新で、そのまま更新という形になるので問題はないと思います。

【安田】

スケジュール的な問題が気になります。公募かどうかという点が決まるのはいつごろになるのでしょうか。

【本間】

ファンクラブがNPO法人化をしてからと考えていたため遅くなってしまいました。そこまで遅くはないと思います。長くても2ヶ月を見ていただければと思います。

【松島】

確認ですが、来年度からこの制度がスタートし、運営委員会は引き続き、存続するというところでよろしく申し上げます。それでは最後その他について。事務局からはありますでしょうか。

【本間】

ありません。

【松島】

ちなみに、28年度の事業計画がなかったのですがこちらはこれからですか。

【本間】

今年度のもは前回の運営委員会のときに承認していただいた内容で進めさせていただいております。

【安田】

市内にいくつか海浜植物が植えられている場所があり、地域の方たちが手入れをしてくれているけれど、そういった場所に看板などあれば海浜植物のアピールになるのかと思いました。

【内藤】

自分が役所にいたときも地元の方たちのボランティアという経緯があり、こちらからやってほしいとは言える形ではなかったです。図書館のように普及員さんが行くような体制をとればとは思いますが。

【松島】

本来であれば公園管理者や、管理を委託されている町内会に頼むのがあるけれどその場所をお願いするのが基本ではありますね。

【本間】

花いっぱい運動など各町内会さんが花壇をきれいにしていますが、海浜植物の手入れをどの部分がやっているか担当者等に聞いてみないと詳しくはいえないですね。

【川村】

花川南公園など大きな公園は委託しているようです。ただ、公園にあった海浜植物に看板を建てるとなると、きちんと管理をする必要が出てきます。図書館の花壇を整備しているのと同じように保護センターの業務として管理する体制を組む必要がでてくると思います。

【本間】

身近に海浜植物があるのは良いことですが、保護センターの趣旨とは少し違うのかなと思います。もう一度目的を見直していく方が良いと思います。

【安田】

やるならお願いする必要があると思います。

【松島】

もう一度整理した方が良いと思います。保護センターの業務としてやるからには目的などを明確にしていく必要があると思います。

【高瀬】

今回散策路を作っていただいたので、弁天歴史公園への案内看板を建てて案内ができるようにしました。さけまつりの時にはまなす広場の案内ができると思います。

【松島】

今後ともよろしく願いいたします。それでは他にないようですので、事務局にお返ししたいと思います。

【本間】

皆様、長時間にわたりお忙しい中ありがとうございました。今回の議事録に関しては会長に目を通していただき、皆さんにお配りさせていただきたいと思います。それでは第1回運営委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議事録を確認しました。
平成28年8月17日
石狩浜海浜植物保護センター
運営委員会会長 松島 肇